ナップかついで歩いて確認

＝郷土研究会＝

我、郷土研究会は、その成立も新しく名前を知る人も少ないと思いますが、その伏線は数年前からあり、今年の二月に、それが正式に発足したのです。この同好会の目標は、その名の示す通り郷土の文化・産業・風俗・歴史等々の郷土に関係した研究をやろうというのですが、その研究方法には徒歩という物を取り入れました。歩いて一つ一つの事を確認し、またそれにより、新しい研究もやろうというのです。

ところで、何しろ今年できたばかりなので、そう一度にというわけにもゆかず、とりあえず今年は歴史―それも郷土に関係の深い、織田・豊臣を中心とした―を取り上げました。別に深い理由もないのですが、皆が自然に入って行けると思ったから取り上げたのです。研究方法は先に述べた様に徒歩を用いるため、最初は個人々々の調査研究が主となり、それを四二回の会合に持ち寄り、それぞれの意見交換をやるわけです。この様にして徒歩行動の準備段階を確実なものとしてから徒歩となります。実際歩いてみると思いがけない事によく出会います。たとえば、春に行った桶狭間の戦の研究で熱田から歩いて鳴海城跡まで行った時に、城跡の所で出会ったおじいさんはいろいろ話をして下さいました。その話はよく戦闘のことや砦のこと、はてには土地の上り下りまでといった細かい事まででした。それで満足そうに我々に話して下さっていましたが、話が大将の心のことからおじいさんの初恋の話まで進み、我々一同はほほえましく思ったこともあります。また今やっている小牧・長久手の戦の研究で、この間、犬山へ行った時も、土地の与兵屋さんでいろいろくわしく調べておられる人に偶然会い、熱心に我々に話をして下さるので、我々もつい昼食時間も忘れて（？）話に耳を傾けていました。しかし楽しい事ばかりでもありません。本などに書いてある物がなく、一時間も周囲を歩いていた事もあります。しかしそんな時でも、土地の人にたずねて草の中や茂みの中をかき分けて行って、やっとその中途にあるのを見つけた時は本当によい気持がしますし、やはり歩いて確かめなくてはと思う様になります。

この様にして我々はいま同好会をやっていますが、これからは単なる歴史方面ばかりではなく、本来の郷土研究会の目標である郷土という物にアプローチするために他の面も、もっともっと進めて行こうと思っています。その様な意欲のある人たちがまた同好会の人達です。

ともかくも、皆気心の知れた人達で、そんな人達と空の晴渡った日なんかに、ナップサックをさげて、自分の調査研究してきた事を体で確認し、感するという事は何はさておいても素敵なことではないでしょうか。

サークル短信

秋のシンポにむけて

―児童文化研究会―

現在東海人形フェスティバルとは今年で三年目、東海地方の人形劇をする人達で組織されている東人協の主催でこの十三、四日に白金児童館にて、人形公演、分科会、人形パレードがおこなわれる。公

秋の祭典に向けて、連中達くまで張り切っている。フェスティバル